平成 24 年度：子ども樹木博士リーダー等交流・研修会（H24.12.2(日)）

平成 24 年 12 月 2 日(日)、東京都文京区において、当協議会主催の「平成 24 年度子ども樹木博士リーダー等交流・研修会」を開催いたしました。本交流・研修会は「子ども樹木博士」活動の実施のきっかけづくりとスキルアップのための交流と研修の場として、既に活動を進めておられる方やこれから実施してみたいという方、興味や関心のある方など対象とするものです。

当日は､快晴ながらこの季節一番と言われる冷え込みの中で､東北や関東近辺から総勢 23 人の参加により、午前 10 時から 12 時まで野外プログラムとして東京大学の小石川植物園での樹木ツアー、午後 1 時から 3 時 30 分まで屋内プログラムとしてプラザ・フォレスト（全林野会館）会議室において講師の先生による研修等を行いました。

概要は次のとおりです。

1　野外プログラム

小石川植物園で、インストラクターの引率により樹木ツアーを行いました。小石川植物園は東京大学の施設（約 16ha）で、植物学の教育・研究を目的として約 4 千種の植物が植栽されており、珍しいものとしてニュートンのリンゴ、メンデルのブドウ、精子発見のイチョウやソテツなどのほか、大きさも種類もさまざまな樹木がたくさん見られます。

樹木ツアーでは次の 3 人の先生をそれぞれインストラクターとしてグループに分かれ、先生からのいろいろな説明や話題に耳を傾けるとともに、参加者も加わった話題提供等もあって、約 2 時間、カシ・シイ類、ヒマラヤスギ、メタセコイアやラクウショウ、カヤ、ヒノキなどの針葉樹、赤い実をつけたヒョウタンボク、モチノキ、カツラ、ハゼノキ、ムラサキシキブ、イヌビワ、チドリノキなど、30 数種の樹木ツアーが瞬く間に終わりとなったような感じでした。

メタセコイヤの下で

（インストラクターの先生（敬称略））

堀内　孝雄（茨城県植物園緑のインタープリター・森林インストラクター）

柳原　高文（(一社)全国森林レクリエーション協会主任研究員・森林インストラクター）

小菅　智彦（森林インストラクター東京会副会長）

2　屋内プログラム

午後はプラザ・フォレストの会議室に移り、昼食後

1 時からいわゆる座学となりました。

(1) ご挨拶・子ども樹木博士活動について

当協議会の木平勇吉会長（東京農工大学名誉教授）から、本交流・研修会の開催の挨拶に続いて、子ども樹木博士活動の目的や取組について､これまでの経験等も踏まえて､懇切な説明をいただきました。何れにしても、子ども樹木博士のリーダーとして、型にはまらないで、いろいろ知恵を出し工夫しながら進めていただきたいとのことでした。

(2) インタープリテーション

講師の小菅智彦先生から、インタープリテーションとは何か、環境学習の場では自然・文化・歴史な

どをわかりやすく伝えること、事象の裏側にあるメッセージを伝える技術が大切であること。そして、①参加者の個性や経験と関連づけて行うことが重要であることから、対象となる参加者をよく把握すること、②単に知識や情報を伝達することではないことから、伝えるのは相手が興味を持ってからであること、③知識や情報の伝達を基礎とした啓発であることから、当日のテーマやコンセプトを定めること、④一部の事象から全体像を見せるものであることから、テーマやコンセプトに沿った演出を考えることが大切であること。

屋内プログラム

そのためには、「木を見て森を見る」として、季節にあったタイムリーなものを中心に「季」を見て森を見る、参加者の「気」を見て森を見る、時間管理をしながらタイミング「機」を見て森を見ることであり、さらには、木を「観」て森を「観」ることであると、熱くお話しいただきました。

(3) 事例報告・樹木クイズ出題等

講師の柳原高文先生から、事例報告として、自らの経験も踏まえ、小さい幼稚園児や小学校低学年に対しては難しいことを求めるのではなく、一、二の三で声を合わせて教えた樹種名を呼ばせる、樹種の写真と名前を線で結ばせるなどのやり方が大切であり、間違っても解答を求めて泣かせてしまったりするような対応はしてはならないこと、小学校高学年や中学生などに対する対応は難しく、結局はほんとうに興味をもって参加している子どもたちを相手にして行うことになるなどの貴重なお話がありました。

また、樹木クイズの出題は、植物園から枝葉を採取することが難しいこともあって、試行としてパワーポイントにより行われ、午前中の植物園での樹木ツアーの中から 19 種が画像により出題されました。試行ということもあって画像にはいろいろヒントが加えられており、笑いを誘う楽しい出題でした。

(4) 樹木クイズの解答と解説等

講師の堀内孝雄先生から、パワーポイントにより出題された 19 種について、樹種名の解答と解説がありました。樹種の特徴や材の用途等はもとより、関連するエピソードなど、幅広い解説をしていただきました。

採点は参加者による自己採点で行われ、木平会長の特別の計らいにより、初段から 10 段までの特別の認定証をそれぞれ手にしました。

(5) 意見交換等

木平会長の進行により、参加者全員による意見交換等を行いました。いろいろな意見等が出され、小さい子どもを対象とした活動では、緊張の余りオシッコを漏らす子どももいたとのこと・・・。参加者を見て、参加者をよく把握してやさしく・厳しくなど、相応しい対応が必要であるとのことでした。

最後に、木平会長から、子ども樹木博士活動についてはやり方について余り難しく考えないで、①自分が中心になったりあるいはグループをつくって始める、②リーダーは専門家でなくても勉強すればできる、③場所の設定や標本づくりは身近なところから、④開催はできるだけ定例化して、⑤参加者集めのためにも小学校等と連携する、⑥１チームは 10 人程度とするなど、取りまとめと、活動の実施結果については必ず子ども樹木博士認定協議会へご報告いただきたいとのお話がありました。